

SDGs
コミュニケーション
ブック 2022



トップメッセージ



すべてのステークホルダーの皆様とともに SDGsへ貢献してまいります

リコーグループは、創業者・市村清の「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」という創業の精神（三愛精神）を企業活動の原点に据え、「世の中の役に立つ新しい価値を生み出し、生活の質の向上と持続可能な社会づくりに責任を果たす」ことを使命としています。創業以来、この精神に基づいて、常にお客様や社会課題に寄り添った商品・サービスを展開してきました。

私たちリコー日本は、SDGsへの貢献を通じて、自らも成長していきたいと考えています。SDGsを中心とした事業活動が進み、SDGsへ貢献しているという実感の高まりに合わせて、社員の働きがいも向上しています。そして、このコミュニケーションブックを通じて、ステークホルダーの皆様には私たちの活動を知っていただき、未来への想いを共有していきたいと願っています。

リコー日本株式会社
代表取締役 社長執行役員 CEO
木村 和広

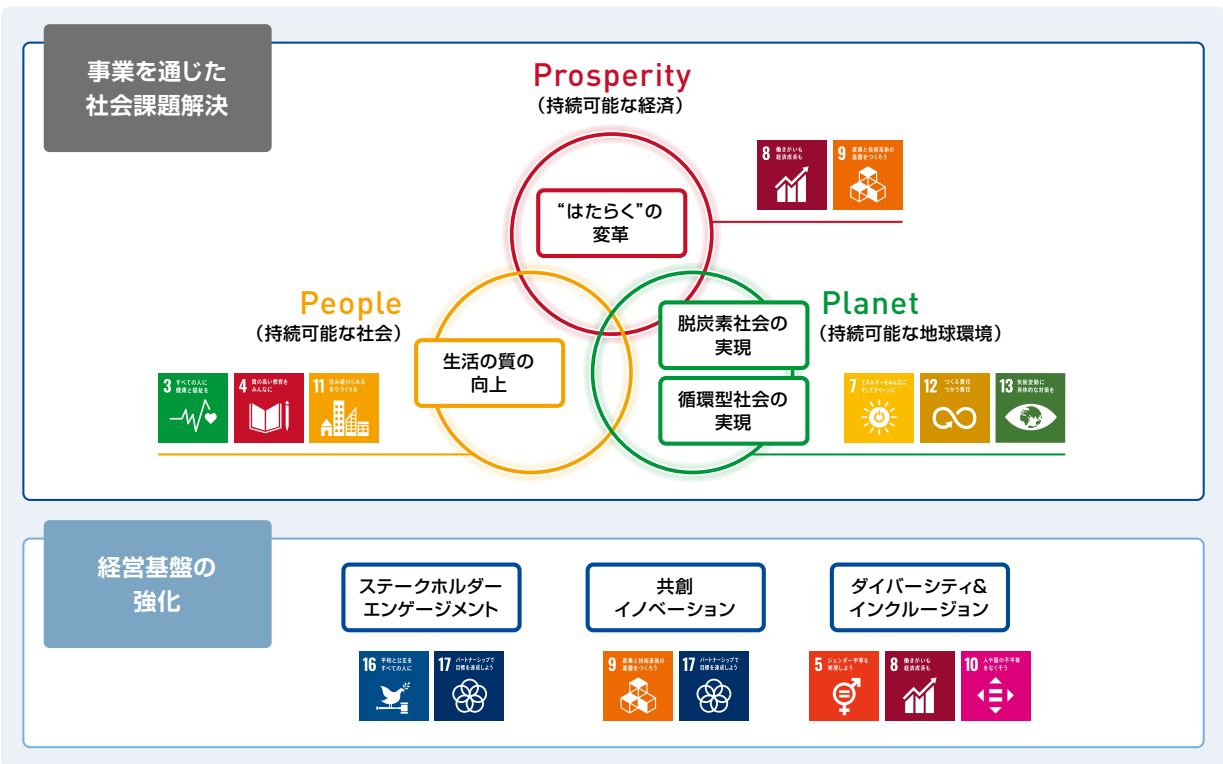


マテリアリティ (重要社会課題) とSDGs

リコーグループでは目指すべき社会の実現に向け、「事業を通じた社会課題解決」とそれを支える「経営基盤の強化」の各領域でサステナビリティ目標を設定し、加えて「社会貢献」でも取り組みを進めています。



◆リコーグループのマテリアリティ



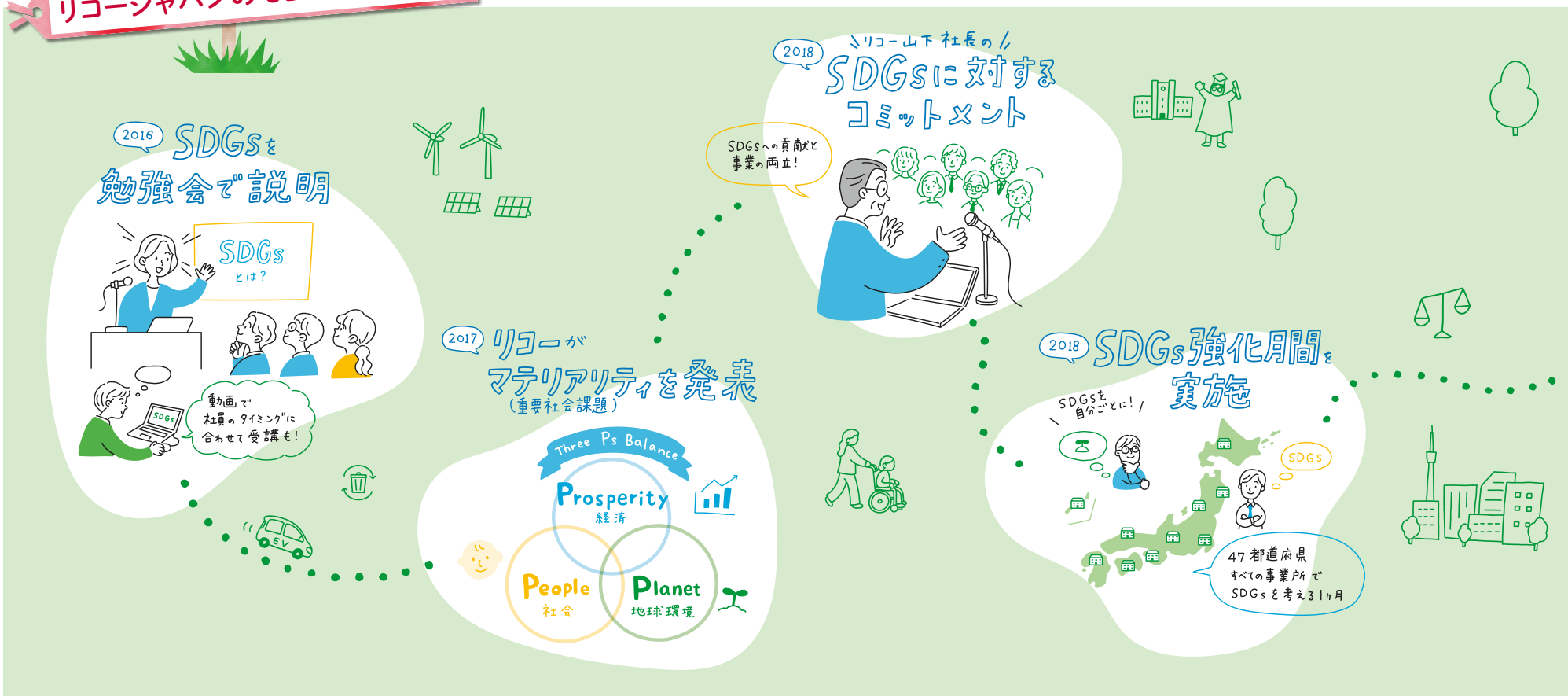
◆リコー日本のサステナビリティ目標

マテリアリティ	リコー日本のサステナビリティ指標	2022年度目標
製品・サービスを通じてお客様を進め、環境への貢献	◆顧客調査でのトップスコア率 (5段階評価の最高評価の選択率) ◆総合満足度 ◆仕事変革寄与度	34% 32%
	◆デジタルサービス導入による業務改善貢献数 ◆産業プロダクツ製品・サービスロボットによる業務改善貢献数	107,300件 798件
	◆時間創出効果 ◆スクラムパッケージ導入による時間創出効果 ◆産業プロダクツ製品・サービスロボット導入による時間創出効果	6,480万時間 255.9万時間
	◆生活基盤の向上への貢献人数 ◆蓄電池の提供による災害発生時の事業継続のための環境づくり	336万人 1,800台
自社パートナーと取り組むSDGsへの貢献	◆主要複合機導入とマングローブ植林によるCO ₂ 削減量 ◆主要プロダクションプリンター導入によるCO ₂ 削減量 ◆再エネ電力提供によるCO ₂ 削減量 (契約件数)	1,296t 11,146kg 6,782t (554件)
	◆自社のCO ₂ 排出削減率 (CO ₂ 排出量)	2015年度比 ▲30% (22,141t)
	◆主要仕入れパートナーに対するパートナー行動規範の署名率 ◆デジタルサービス販売連携度：継続販売 (12本以上/年) できる主要販売店セールの割合	80% 10%
	◆RICOH BUSINESS BOOSTER (持続可能な印刷事業に向けて課題解決に取り組む共創活動) による共創案件数	8件
◆経済産業省DX推進指標の向上度	重点項目* 0.5ポイント以上	
◆プロフェッショナル認定制度：平均プロレベル ◆社員エンゲージメントスコア ◆女性管理職比率	前年比 105% 38 7.5%	

※ リコー日本の重点化項目であるITインフラ、IT人材体制に関する3項目のポイント

リコー日本のSDGsアクション

リコー日本はSDGsを社内に浸透させるとともに、社外にも広める活動を展開してきました。ステークホルダーの皆様とともに、SDGsの達成に向けて歩みを進めていきます。



SDGs 勉強会

2016年7月から開始した、当時のCSR報告書をベースにした勉強会で、SDGsについても伝えてきました。2年間で延べ1万名が受講した勉強会は、現在は毎年録画配信され、リコーグループが作成している講座シリーズと合わせて、社員が語れるようにしています。

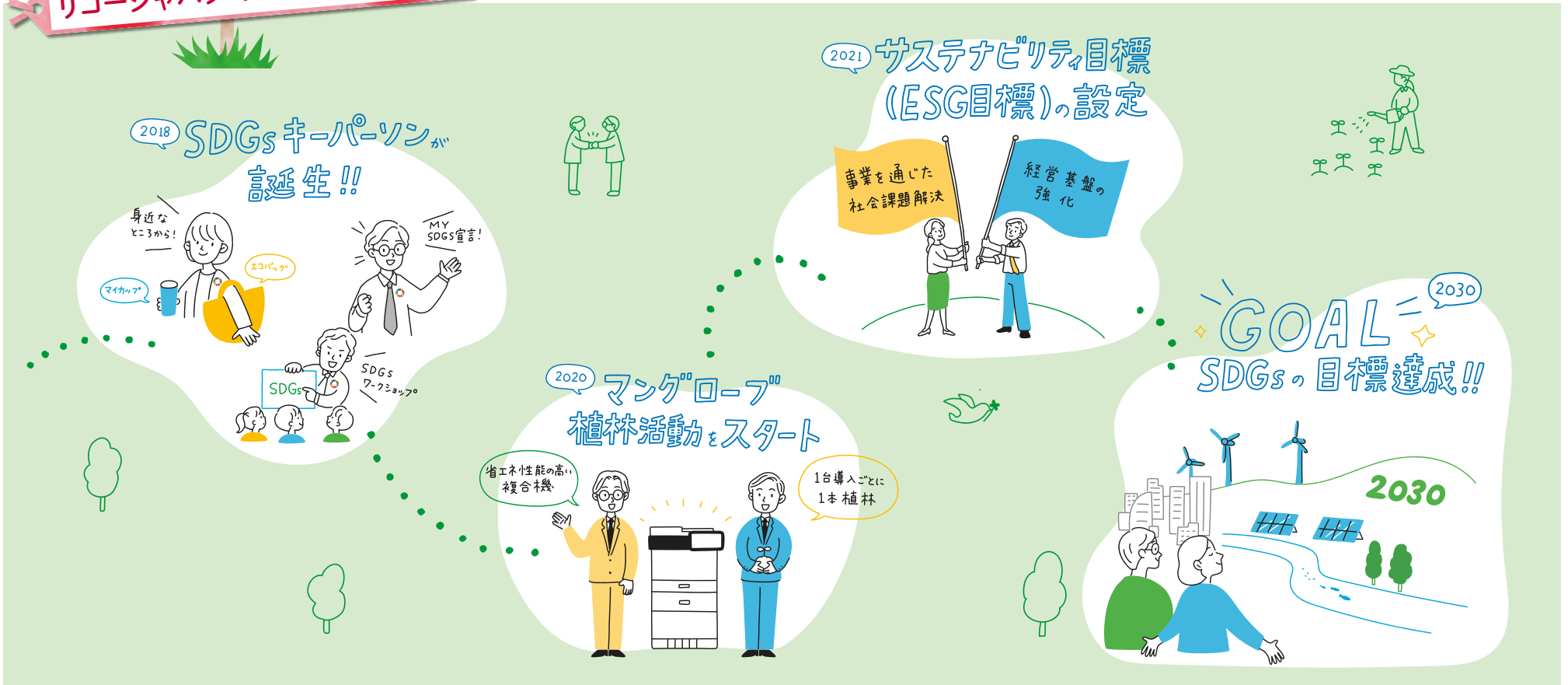
経営トップのコミットメント

2018年の2月にトップが語った「SDGsに貢献しない事業は淘汰される」そして「SDGsを経営の中心に据える」という戦略発表は、社内に大きなインパクトを与えました。これが本格的に社内浸透が進むきっかけになりました。

SDGs 強化月間

毎年2回実施しているSDGs強化月間は、自分たちの仕事がSDGsの達成にどうつながり、事業を通じた社会課題解決ができるのか、真剣に考える機会になっています。部門長が役員と対話して部門ごとの目標を決定・報告するなど、実務レベルにまで落とし込んで実施しています。

リコー日本のSDGsアクション



SDGs キーパーソン

社内外にSDGsの活動を推進する役割を持った、SDGsキーパーソンは2018年11月にスタートしてから増え続け、2022年7月1日現在、約510名になりました。毎月の研修で学びを深め、地域やお客様とのパートナーシップのもと、SDGsへの貢献をリードしています。

マングローブの植林活動をスタート

2020年2月から、省エネ性能の高い複合機をお客様に導入いただくごとに、東南アジアにマングローブを植林しています。脱炭素社会の実現を加速させるため、お客様と一緒にSDGsに貢献していきたいという想いで始めた植林は、累計21万本にのびります。

サステナビリティ目標設定

リコーグループが掲げる重要社会課題(マテリアリティ)に対して、リコー日本が取り組むべき目標を定めました。販売会社として目指す貢献を明確にし、毎年内容を見直ししながら、進捗を報告していきます。

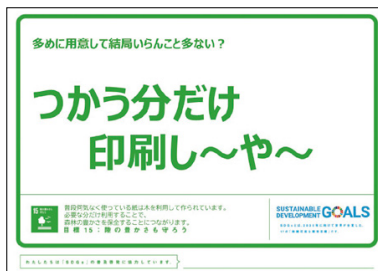


SDGs・ESGに、日々の仕事で取り組むことで、働きがいや誇りにつなげているリコージャパン社員を紹介します。

奈良支社 / 石田 実夢さん (セールス)



中小企業のお客様と接する機会が多く、SDGsについては聞いたことがあるけれど、あまりご存じでない方も多くいらっしゃいます。私の働きかけによってSDGsに興味を持ってもらい、取り組みの必要性を検討いただくことも私の役割だと思います。また、お客様にとってあたりまえであった業務を、提案によって業務改善できたり、少しずつ信用していただきご相談を受けることにやりがいを感じています。



「ひとこと多い貼り紙」を研修で作成したことで、お客様との会話のきっかけになっています。

岡山支社 / 清水 正哉さん (セールス)



私は中小企業のお客様を担当している営業です。チームのSDGs宣言に基づきリコージャパンとお客様それぞれの「事業活動と社会課題解決の同軸化」の推進を最重点活動テーマとして取り組んでいます。急速なデジタル化が進む現状の中、担当するお客様が誰一人置いていかれることのないように、寄り添い、支えることに強い信念を持ち、日々実践していきます。



大阪支社 / 吉住 瞭さん (カスタマーエンジニア)



保守活動の中で、長らくリコー製品をご使用いただいているお客様へ、お礼をお伝えしながら訪問しています。2年目社員向けの研修で先輩たちと学んだSDGsの内容を、お客様にご説明させていただくことによって、脱炭素につながる商談にもなると知り、大変嬉しかったです。お客様にもSDGsを知ってもらうきっかけづくりができただけでなく、SDGsにも具体的に貢献できていると感じています。

山梨支社 / 田中 伊代さん (セールス)



私がキーパーソンに志願した理由は、ICTを通じたリコージャパンの社内実践事例やSDGsの推進活動が、お客様との共感のツールになると感じたからです。お客様から「リコーさんのおかげで自社の価値に気づけた」と言っていただき、改めて、働くことは誰かに喜んでいただくことなのだと実感しました。





リコーグループは、「良き企業市民」として、国または地域の文化や習慣を尊重し、志を同じくする人々とのパートナーシップのもと、会社と社員が協力し合い、地球・社会の持続的発展に貢献します。

リコー・サイエンスキャラバン

リコーが提供する科学の体験学習の機材を活用して、リコー・ジャパンは、地域のさまざまなイベントでサイエンスキャラバンライトを展開しています。茨城支社では、常総学院中学校にて1～3年生の希望者60名に「カメラの仕組みを知る～360度の世界～」と題した探究授業を行いました。



【生徒の感想】

RICOH THETA（シータ）という魚眼レンズがついた360度カメラを使わせてもらい、実際に写真を撮りました。私はRICOH THETAを初めて見たし、初めて使ったのでとても楽しかったです。リコーという大きな会社の方からお話をいただくという経験は滅多にないので、すごくいい経験となりました。

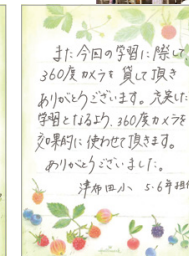
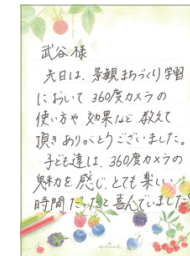
ウェルカメクリーン作戦（海岸清掃）

静岡県浜松市が主催する遠州灘の「ウェルカメクリーン作戦」に静岡支社の社員、その家族を含む総勢70名が地元企業として参加しました。この活動は浜松市の天然記念物であるアカウミガメが安全に産卵できる砂浜を確保する目的で行われ、プラスチックごみの海洋流出を防いで海の豊かさを守ることにつながっています。



「景観まちづくり学習」に貢献

山口支社は2022年3月に廃校になった山口県山陽小野田市の津布田小学校5・6年生15名を対象にした「津布田地域のおすすめの景観、残すべき景観を発信する」プログラムに参加しました。子どもたちは、「景観まちづくり学習」の一環で全天球カメラRICOH THETAでまちの撮影を行うことで、生まれ育ったまちの魅力を再認識することができました。





リコーは1936年の創業以来、常にお客様の視点に立ち、技術革新を行ってきました。長年かけて磨いてきたコア技術と独自のアイデアで新たな価値を生み出し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

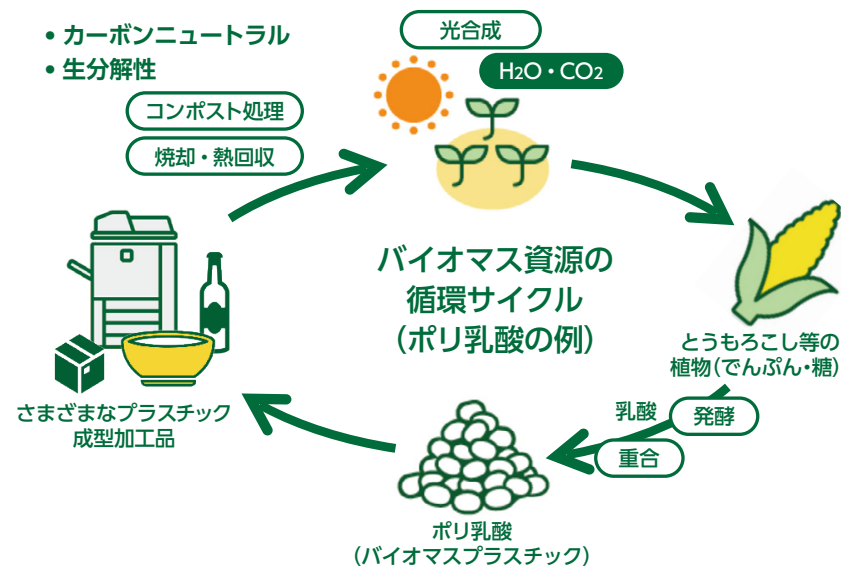
植物由来の新素材「PLAiR (プレアー)」

PLAiRは、しなやかさと強さを両立した発泡PLAシートです。発泡倍率を変えることが可能で、利用目的によって緩衝材や梱包材はもちろんのこと、2次加工によって食品トレーや容器等幅広く利用することができます。また表面にプリントができるので、装飾性の高い製品として利用することもできます。

さまざまな加工例



リコーグループでは脱炭素・循環型社会の構築に向けて、植物由来のでんぷん・糖から作られた材料のPLA (ポリ乳酸: polylactic acid) に着目しました。PLAはカーボンニュートラル、つまり、焼却しても大気中の二酸化炭素を増加させません。さらに、一定の環境下で水と二酸化炭素に分解するコンポストابلという特性を持っています。



ラベルレス印刷でプラごみ削減

リコーは、プラスチック容器に直接文字やデザインをレーザーマーキングする技術を開発。アサヒ飲料株式会社がテスト販売した「アサヒ十六茶」PET630ml ダイレクトマーキングボトルに採用されました。シュリンクラベルやタックシールなどを使わずに、商品名や原材料名などをペットボトルにレーザーで直接書き込むことで、食品表示法などで規定された情報表示を完全ラベルレスで実現します。これにより、消費者に適切な情報の提供と、省資源化による環境負荷削減を両立し、循環型社会の実現に貢献します。





こども成長アルバム そだちえ

オンライン写真販売サービス「こども成長アルバム そだちえ」は、保護者が手軽に子どもの写真・動画を選んで入手することができるサービスです。安心のセキュリティに加え、顔認証で探しやすく、家族内で写真共有が可能になるなど、機能も充実しています。

また、保育・教育に従事する先生たちの業務負担を軽減することができ、保護者が購入した収益の一部を、NPOフローレンスに寄付することで、病児保育、障害児保育、ひとり親支援など、主に働く親子を取り巻く社会課題解決を支援しています。

2021年度は「病児保育問題」「ひとり親家庭の貧困問題」「障害児保育・支援問題」「孤独な子育て問題」「赤ちゃんの虐待死問題」を解決する活動を支援しました。



スマートグラスを活用したカスタマーサービス

カスタマーエンジニアのスキルや熟練度は個人によって異なるため、後方支援が必要になるケースもあり、その一方でベテラン社員の高齢化も進んでいます。現場支援を行える体制の構築に、約4,600名のカスタマーエンジニアの視覚や音声による支援を遠隔地から行える、AR（拡張現実）機能を備えたリモートアクセスソリューションを導入しています。これにより、スマートフォンやスマートグラスを通じて現地の状況を共有しつつ、その映像にAR技術を用いて指示を加えることで、現地に赴くことなく現場のエンジニアを的確にサポートすることが可能になっており、対応時間が5時間短縮できるケースもあります。



現場カスタマーエンジニア

スマートグラスの活用により、両手が常時使え映像共有が可能



サポート区





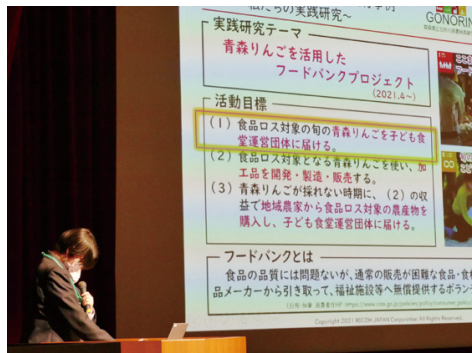
SDGsの目標達成にはパートナーシップが欠かせません。リコージャパンは、社員とその家族、お客様、ビジネスパートナー、地域住民の方々など多様なステークホルダーと連携し、お互いの強みを活かしながら、新たな価値の創造に挑戦しています。

青森県と学生向けSDGsフォーラム

青森県内のSDGsの普及促進を目指した取り組みとして、青森県との共催でSDGsワークショップ・フォーラムを企画・実施しました。県内の学生を対象に、「新聞記事から君が考える 青森県のSDGsを見つけてみよう!」と題して、県内の主要新聞社3紙の地方版の記事の中から、SDGsを起点に地域課題の解決に向けたアプローチの構想案をまとめて応募してもらい、構想案を県とリコージャパンが審査しました。2021年12月のフォーラムには、高校・大学14校49チーム、185名からエントリーがあり、来場者は370名にのびりました。



フォーラムでの表彰式とプレゼンテーションの様子



ひろがるフードバンクの活動

困窮している家庭や子どもたちを応援するため、全国の支社にフードバンクの輪がひろがりつつあります。島根支社では、「フードバンクしまね」の取り組みに賛同し、年2回食料品の寄贈を行っています。またパッキング作業のボランティアにも社員が参加するなど、その活動を応援しています。

現在、島根県内のご販売店も一緒に参加いただいております。さらに活動をひろげていきたいと考えています。



左から、リコージャパン島根支社 佐藤千恵、
フードバンクしまね 新井徹様、大木理之 事務局長、
リコージャパン島根支社 松良信吾 支社長



集まった食品のパッキング作業
には社員も参加



レンタル自転車事業「きゃっチャリ」

福井県坂井市とリコージャパンは包括連携協定を結んでいます。福井支社では、坂井市のレンタル自転車専用の「きゃっチャリ」アプリを開発し、2021年7月15日から市内外のお客様にご利用いただいています。

市内の丸岡エリアには、北陸唯一の現存天守である丸岡城を中心に、歴史・文化・食・自然を感じることができる魅力的な場所がたくさんあります。このレンタル自転車事業を、キャッスル(丸岡城)とレンタル自転車(チャリンコ)を組み合わせ「きゃっチャリ」とネーミング。自転車を利用し丸岡エリアの魅力をつなぐとともに、近距離移動の利便性を高めるために、市民の発案によって生まれました。



「たくさんの方にこのアプリをダウンロードしてもらい体験して欲しい」と語る坂井市/前田英邦様(左から3人目)

地域と進めるゼロカーボンアイランド

鹿児島県知名町と和泊町、一般社団法人サステナブル経営推進機構とともに、「ゼロカーボンアイランドおきのえらぶ」を提案し、環境省の「脱炭素先行地域※」に選定されました。

リコージャパンは、地域内外のステークホルダーの皆様と共にマイクログリッドの構築や公共施設の省エネ・再エネ・蓄エネ、自動車・バイクのEV化など、脱炭素に向けた取り組みを進めていきます。

※2030年度までに民生部門(家庭部門および業務その他部門)の電力消費に伴うCO₂排出実質ゼロを実現するとともに、運輸部門や熱利用等も含めてそのほかの温室効果ガス排出削減についても、わが国全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域です。採択された自治体には今後概ね5年程度の期間で最大50億円が、地域の脱炭素化促進のために交付されます。



左から、一般社団法人サステナブル経営推進機構 壁谷武久 専務理事、前登志朗 和泊町長、今井力夫 知名町長、リコージャパン自治体事業部 高橋卓也 事業部長



知名町のマスコットキャラクター「ちなぽー」



和泊町のマスコットキャラクター「リリリー」



お問い合わせ先

リコージャパン株式会社

経営企画本部 経営企画センター
コーポレートコミュニケーション部

〒105-8503 東京都港区芝 3-8-2 芝公園ファーストビル

<https://www.ricoh.co.jp/sales/about/>

QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標です。

その他、このレポートに記載の会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。

リコーはお客様満足度No.1

J.D. パワー 2021年
カラー複合機顧客満足度No.1<ラージ&ミドルオフィス市場>
カラーレーザープリンター顧客満足度4年連続No.1
ITソリューションプロバイダー顧客満足度7年連続No.1
<独立系/ユーザー系/事務機器系Sier>

J.D. パワー調査の詳細は jdpower-japan.com をご参照ください。



●表紙イラスト

パラリンアート® (障がい者アート)

作品テーマ：「三愛精神」

作者コメント：「三愛精神が伝わるよう落ちついた色であたたかい感じにしました。」 by koto

リコージャパンは(一社)障がい者自立推進機構のプラチナパートナーです。

サステナビリティレポート2022



私たちの活動詳細をWebサイトでご紹介しています。ぜひご覧ください。

<https://www.ricoh.co.jp/sales/about/sustainability/report/>

